

平成24年5月定例教育委員会会議録

(1) 開会及び閉会に関する事項

平成24年度5月16日(水) 三好市教育委員会 会議室
開会 午後2時00分
閉会 午後3時40分

(2) 出席委員の氏名

委員長 岡本 佳代子 委員長職務代理者 小松 正
委員 森本 久美子 委員 谷 敏司
教育長 倉本 淳一

(3) 委員及び傍聴人を除くほか、議場に出席した者の氏名

◆出席職員

教育次長 田岡 啓子
学校教育課長 伊原 清幸 生涯学習課長 鈴木 良英
スポーツ健康課長 辺見 進一 学校教育課企画監 湊 政己
教育指導主事 喜多 雅文 文化財課長補佐 加藤 昌子

◆傍聴人 0名

(4) 議事録署名者の指名

小松 正 委員

(岡本委員長)

ただいまより、5月定例教育委員会を開きます。議事録署名者には小松 正 委員を指名します。教育長から職務の報告をお願いします。

(5) 教育長等の報告要旨

(教育長)

5月7日、三好市の文化協会の総会がありました。5月9日、蔦文也杯選抜野球大会の実行委員会があり、今年も第5回大会を8月末に実施することが決定しました。5月10日と5月15日、委員の皆さまには学校訪問でお世話になりました。学校訪問のあり方については、また後でご意見も頂きたいと思っております。5月11日、吉野川市の鴨島町で四国都市教育

長会がありました。不登校問題、中学校の武道(柔道)の指導の問題、小中の連携及び小中一貫校の問題が議題となりました。また5月11日、チャレンジデー実行委員会がありました。今年の対戦相手は秋田県の男鹿市です。

つづきまして、行事予定ですが、5月17日、臨時議会があります。5月18日と22日は市教委学校訪問です。よろしくお願いします。5月23日、県教育委員会が高校再編説明会を19時から総合体育館で実施します。5月26日、13時から総合体育館で船井電機会長である船井哲良氏に対し、名誉市民の称号を贈呈する式典が行われます。5月30日はチャレンジデー、6月5日は市民大学講座、総合体育館で13時から開催されます。6月30日、トライアスロンのオリンピック代表選手である細田雄一選手の壮行会が池田の小学校体育館で開催されます。また、次回の定例教育委員会を6月26日に予定しています。どうかよろしくお願いします。以上です。

(6) 議題および議事の概要

【議題】

- ①文化振興に関する事務の移管について
- ②三好市立幼稚園管理規則および三好市立学校評価実施要綱の改正について
- ③平成24年度三好市教育委員会視察について
- ④その他

(岡本委員長)

報告事項について、何かご意見やご質問はありませんか。なければ、議題①の文化振興に関する事務の移管について、協議に入ります。説明をお願いします。

(鈴木課長)

それでは、資料の平成24年4月9日三好市総務第10号により、事務の移管について提案理由を説明します。

三好市では推進する重要施策の1つとして「文化あふれる交流のまち三好市」を掲げ、その実現を目指しています。文化に関する事務は、法律上(自治法、地教行法)教育委員会が所管することとされています。これまで本市においても、首長部局との連携の下、多種多様な教育に関する事務を教育委員会が執行して参りました。今回、文化振興に関する諸施策について、より主体的かつ戦略的に遂行するため、文化に関する事務を首長部局において管理、執行したいとの申し出があり、地域における文化振興の観点から考え、申し出の通り首長部局に事務移管することが妥当であると考えております。

移管する事務としましては、文化財の保護、社会教育及び生涯学習に関する業務を除く文化に関することです。移管する期日は平成24年7月1日の予定です。

つぎに、別紙資料のとおり、移管する具体的な業務や事務についてですが、各種団体、文化団体の補助金に関すること。三好市民文化祭実行委員会関係の関連事業に関すること。国民文化祭のクラシックコンサート開催に関すること。その他、例えば、宝くじ助成事業、財団法人の地域創造補助事業などの文化振興関係事業に関することです。これらが概ね移管する事業や業務でございます。

また、移管しない業務としては、生涯学習、社会教育、人権教育に関すること。社会教育施設、図書館、公民館、分館に関すること。三好市青少年育成センターに関すること。富士正晴顕彰事業に関すること。以上でございます。

(岡本委員長)

ご説明は今の通りですが、何かご意見ございませんか。先月の説明と違うところは、富士正晴顕彰に関する事業が残ったことですね。

(鈴木課長)

富士正晴に関する事業につきましては、全国の高校生が対象になりますので教育的観点からも教育委員会が妥当ということになりました。また、一般の同人雑誌賞も従来通り、生涯学習課が担当します。

(岡本委員長)

説明は以上ですが、ご意見ございませんか。

(小松委員)

前回の(私の)意見を入れていただいているので、特にはないです。

(岡本委員長)

では、この議題についてはご承認いただけたということで、よろしく願いいたします。それでは、次の議題に移りたいと思います。議題②の三好市立幼稚園管理規則および三好市立学校評価実施要綱の改正について協議します。説明をよろしく願います。

(伊原課長)

三好市の幼稚園の規則のうち、今回、小・中学校と同様にするために、幼稚園の学校評価、学校評議員に関する部分を改正するものです。また、要綱につきましても評価報告書の様式等を改正することになります。要綱につきましては、(改正前の)1の総括評価の(4)特別支援に関する評価、(5)子育て支援・預かり保育に関する評価を、2の分野別評価の(3)主要な教育活動に関する評価及び(5)その他に関する評価の欄に組み換えをするため、評価報告書の書式を変更する必要があります。

また、評価基準ですが、小学校、中学校と同様に、達成度による4段階評価に改正するものです。

(岡本委員長)

幼稚園の学校評価についての規則と要綱の改正ということですが、何かご質問・ご意見はございませんか。

(小松委員)

特別支援は別枠にしたのですね。

(伊原課長)

「特別支援に関する評価」と「子育て支援・預かり保育に関する評価」については、特別支援の対象者がいない幼稚園もあります。また、預かり保育もすべての幼稚園で実施していませんので、そのように改正したらどうかと考えています。

(小松委員)

わかりました。

(谷委員)

改正後の幼稚園管理規則第15条では、学校評議員及び学校評価等については、三好市立学校管理規則第36条を準用する、となっていますが、(学校評議員を)置かなくてはならないのですか。

(教育長)

三好市としては学校評議員を置くことになっています。

(谷委員)

幼稚園もですか。

(教育長)

小学校と同じでもいいし、別々に置くこともできます。

(伊原課長)

幼稚園と小学校の学校評議員の組織が同じところもあります。また、PTA関係者の部分では、幼稚園には幼稚園の会長が入って、小学校は小学校の会長さんが入って、あとは同じというところもあります。

(谷委員)

わかりました。

(岡本委員長)

他にございませんか。それでは、この件については提案のとおりということでよろしくお願ひします。

(岡本委員長)

第3の議題、平成24年度三好市教育委員会視察についてです。ご説明をよろしくお願ひします。

(伊原課長)

今年の4月、視察については小中一貫教育校と子ども園の話があったと思いますが、どうでしょうか。

(教育長)

昨年は7月の初めに観音寺市伊吹島の小中一貫教育校を視察しました。小中一貫校は、以前に松山市の日浦小学校にも行きました。東祖谷小中学校は、今年、開校してスタートを切りましたので、小中一貫校の視察は教育委員会より、むしろ先生方に視察をしてもらう方が参考になるのではないのでしょうか。

(岡本委員長)

小中一貫校は、学校の先生方が視察されて、実践上の課題を研修された方がいいですね。

(教育長)

高松市の屋島に子ども園があります。

(岡本委員長)

幼稚園は、今後の大きな課題と思うのでいいと思いますが、どうでしょうか。

(森本委員)

いいと思います。

(伊原課長)

時期はどうか。6月の議会が終了した7月初めごろでどうでしょうか。

(岡本委員長)

行き先とか日程については、事務局におまかせします。それでは、その他のところで、学校訪問のあり方について、ご意見をいただきたいと思います。

(谷委員)

学校訪問時の協議の中で、校長先生とは意思疎通が図れていると思いますが、校長先生以外の先生方とはどうかという思いがあります。例えば、教頭先生にも出席してもらって意見を聞くということはできないのでしょうか。

(教育長)

学校現場で、校長、教頭が同時に不在になりますね。

(森本委員)

小規模校では、教頭先生が学級担任をして授業をもたれています。

(教育長)

教育委員会としては、委員会の方針や考えは校長先生をとおして教職員の方に周知していくというのが基本的な形だと思います。もし、学校現場の先生方の意見を聞くのであれば、以前に開催したように、教頭先生や先生方との対話集会という方法があります。

(谷委員)

今回、東祖谷小・中学校を訪問する場合、小学校のことも聞いてみたいわけです。

(教育長)

それは出来ますね。小学校の教頭先生に出てもらおうということは可能だと思います。

(谷委員)

以前実施した先生方との対話集会は、人数も多く意見が出なかったと思います。

(教育長)

学校訪問の形ですが、毎年全校を訪問するか、いまやっているように訪問校を指定して、周辺の校長先生方に来ていただいてヒアリングを行うか、この2つだと思います。

(森本委員)

いろいろな学校を見てみたいという気はありますが、今年は様々な課題や各校の取り組

みについて、時間をかけて協議することが出来たので、これまでより深まったと思います。また、校長先生方の積極的な取り組みや問題点もこれまで以上によくわかり、自分でも考えさせられることが多くありました。長短あると思いますが、やり方としては今年の方がいいのではないかと思います。

(岡本委員長)

昨年もこういうやり方でしたね。年に1回の学校訪問ですので、学校と先生の顔が結び付きにくいというところがありますが、いま森本委員がおっしゃった通り、話し合いがゆっくりに来て、バタバタした訪問にならないのでこの点は大変よかったです。また、全校を回っていた時は、授業を見るのも短時間でしたが、今回は訪問した学校については十分に見せていただくことが出来ました。何年かに1回は、全校を訪問する必要があると思いますが、今年の方法の方がいいと思います。

(教育長)

昨年と今年訪問したところは避けるように計画すれば、うまく回れると思います。

(岡本委員長)

3年くらいの周期になりますね。

(教育長)

そうですね。3年に1度は回れると思います。現在の方法は、校長先生方も他の学校を視察できるということがいいと思います。

(小松委員)

そうですね。それが一番ですね。

(教育長)

例えば、学校要覧にしても他の学校の要覧を入手することは出来ませんが、説明を受ける機会はまずありません。学校訪問の協議の場で、お互いに説明を聞けば、大変参考になるのではないのでしょうか。

(岡本委員長)

学校要覧には、それぞれ特徴がありましたね。教育委員会の重点施策をきちっと位置づけて、それが目立つようにして3つの運動を入れている学校もあって、他の校長先生も参考になったと思います。

(教育長)

他の学校の取り組みを聞くと、刺激される部分があると思います。

(谷委員)

中学校の校長先生が小学校の学校要覧を、小学校の校長先生は中学校の学校要覧を見る機会があるというのも大きいと思います。

(岡本委員長)

それも大きいですね。授業も見えますね。

(教育長)

学校経営にしても、3校か4校いれば、取り組みの違いや格差もわかります。

(谷委員)

質問もしやすいですね。例えば、今回の学校訪問では、自分はこれをテーマにしたいと思っても、各学校で同じ内容の質問ばかりを繰り返してたずねにくい。しかし、3、4校いれば、ひとつの質問にみんなが答えてくれるわけですから、ありがたいですね。

(小松委員)

校長先生方は、かなり刺激を受けているのではないですか。また、個々には言いにくいことも、複数校いれば言える場合もありますね。

(岡本委員長)

率直に言える雰囲気、飾らずに言える雰囲気よかったですと思います。

(森本委員)

オンリーワンとかステップアップスクールの取り組みについてですが、子どもたちのしっかりとした教育のために、オンリーワンとステップアップをきちっと繋がったものにしていく。最終的な目標は子どもたちの学力や体力向上であり、そのためにいろいろな要素的なものがベースになるということをしっかり先生方に考えて欲しい、その点が十分理解されているのか、少し気になりました。

学校では、何かイベント的なものを地域あげて「わあっ」とやりました。子どもたちが参加しました、保護者もみんな来てやりました、というようなことが往々にしてあります。それも悪くはないが、それが目標ではないということが、学校訪問時の説明で校長先生方にもわかっていただいたのではないかと。私自身はよく理解できたので、その点はよかったですと思います。

(教育長)

オンリーワン、ステップアップについては、学校現場がきちっと理解できているのか、という疑問があります。四国都市教育長会で、市町村教育委員会がかなり主体性を持って、様々な重点施策などを学校現場に降ろしていると感じました。また、そのための予算も付けている。三好市は、どっちな言えればオンリーワン、ステップアップの主題設定にしても、学校の主体性を尊重して学校経営を任せているわけです。

例えば、学校の独自性や主体性を損なうことになってしまいますが、教育委員会がオンリーワンやステップアップの主題を市の共通的なテーマとして設定すれば、市の教育方針や考え方はより学校現場に徹底できると思います。

(岡本委員長)

そもそも、オンリーワンは、その学校の特色を出しなさいということだったと思います。そのようなやり方は、初めの趣旨とちがってきませんか。

(教育長)

各学校の枠を少し広げて、学校のオンリーワン教育ではなく、三好市の特色を活かした三好市のオンリーワン教育という考えです。例えば、三好市が他に誇れるものとしては、ICT機器の整備があります。今後も電子黒板とか電子教科書等を導入する整備計画を立てて、各学校で ICT 教育を核にした学校経営を実践していただく。そして、その活用を競い合いながら、三好市独自の特色ある教育を推進するということです。

(小松委員)

教育委員会の指導性やリーダーシップをより発揮する場合、もっと学校訪問を頻繁にやって、学校訪問の成果をあげるとか、オンリーワンスクール、ステップアップスクールのフォローをもっと確実にしていくということが大切であって、それらを先にやるべきだと思います。

(岡本委員長)

それは、教育委員の職務の範疇を超えていますね。

(教育長)

それについては、各学校を訪問して指導していただいている喜多指導主事やエドバイザーの職務ですね。

(岡本委員長)

徹底的にやるのが理想は理想ですが、やはり信頼して、学校現場は校長にまかせるという姿勢が大切だと思います。重要なことは、教育委員会が出した方針にすべての学校が賛同して、一致団結して実践していくことだと思います。

(教育長)

オンリーワンとステップアップを掲げて 6 年目ですが、まだ、学校現場に十分に理解されていないというのは、もどかしい気がします。

(森本委員)

学校間で格差がありますね。校長先生のやる気によってすごく違うように思います。

(教育長)

三好市の重点施策の 1 つに ICT 教育があります。これを三好市のオンリーワンにしようということで教育委員会がテーマを決めることは、やっぱり上から抑えついたり、学校を縛ることになりますかね。

(岡本委員長)

教育委員会の方針があって、資金を投入して ICT の環境整備を整えていけば、学校現場は喜ぶと思います。

(谷委員)

学校を訪問して思うのは、ある程度 ICT 教育なら ICT 教育というテーマを挙げることも必要かと思います。これまで、オンリーワンスクールとステップアップスクールがかけ離れていて、別々に平行した形で、テーマをあげている学校がほとんどという感じです。ただ、三好市の場合は、学校の独自性を尊重しているので、そこも容認するという姿勢でいいのかなと思っていたのですが、先日の井川地区の訪問でも、オンリーワンスクールがあってそれで達成するためのステップがあってというテーマが掲げられているところはありませんでした。

(岡本委員長)

最初のスタートはどうだったんですか。

(教育長)

最初、校長会では毎年のように何回も説明していますし、テーマが出てきた時に個別に話をした学校もあります。6 年間経ちましたので、校長先生方も異動などで変わりました。十分な引き継ぎはお願いしてきたつもりです。

ただ、なぜ ICT かというと、三好市の特色は何かといえば ICT の教育環境だと思うのです。この整備状況は全国的に見ても恥ずかしくない。これを活用しなくては、三好市教育の独自性は出せないのではないかと思います。

(谷委員)

徳島自体が通信インフラでいえば、全国トップレベルにいつているはずですよ。

(岡本委員長)

企業も来ていますね。

(谷委員)

来ています。それに、三好市の学校の施設は整っています。

(岡本委員長)

他の県の人のお話を聞いても、三好市の ICT 機器の整備は進んでいると思います。みんなすごいといいますので、環境には恵まれていると思います。

(教育長)

ICT 教育をオンリーワンスクールのテーマに掲げていた池田小学校が、昨年、校長が変わってテーマが変わりました。池田小は総務省の指定も受け、児童 1 人 1 人にパソコンを配備して、三好市の情報教育のモデル校であるはずなのに、ICT がオンリーワンの主題にならない。これはどういうことかと疑問をもちました。教育委員会がもっとチェックして指導する必要があるのではないかとということです。

ICT 教育というのは、市の重点目標の中の重点施策に掲げていますので、各学校もある程度は意識して取り組んでいます、いまいちの感じがします。三好市全体のテーマとして設定してもいいのではないかと、という思いもあるわけです。

(谷委員)

あまりにも上から押し付けるというような形ではよくないと思います。

(岡本委員長)

ICT を三好市の特徴にすることはいいと思います。しかし、教育というのは、もう少し大きく普遍的なものだと思う。ICT はどう見ても道具としてしか思えない。読書もある、コンピューターもある、いろいろなものがあるその 1 つです。これを普及して、大きく活用しようということには何も異論はないし、大事なことだと思う。三好市の特徴として ICT を活用して成果あげるといいと思います。

(森本委員)

成果があがっているかどうかを見ていく必要はありませんか。

(谷委員)

少し成果を見てみましょう。役に立たないという結果ができれば無理でしょう。

(教育長)

昨日の三縄小学校では、実物投影機を使っていましたね。あれは初歩的な使い方なのですが、せめてあれぐらいはやらないといけない。

(森本委員)

先生の板書の時間も短縮されますね。

(岡本委員長)

実物投影機は有効ですよ。子どもが使っているそのものが映しだされるというのは、子どもとのギャップがないわけです。教科書と同じ物が映ってアンダーラインでも引いたら子どもはわかりやすい。自分が持っているものと映っているものが同じというのは、教科書が2倍に活用できるということですし、先生が前に書いたり、貼るという手間がかからない。便利ですね。何も高度な技術を駆使して使う必要はない。便利に、効果的に使うことが大事だと思う。

(教育長)

先日、池田小学校の図工発表会の時に、ものすごく効果的な使い方をしていたという話がありました。やっぱりいい使い方をすれば、よりわかりやすい。ある学校でも、パソコンを使えば理解させやすいと言っていました。あまり高度な技術は必要ないわけです。まずは、ICT 機器を活用した授業を展開して欲しいという思いが強くなります。財政的支出も多いわけですから、費用対効果の問題もある。

(岡本委員長)

子ども自体が習得し、子ども自身が機械に慣れ、効果的に子どもが使えるということが大事だと思います。ただ、作文を書くのに、パソコンで原稿用紙を出して、みんな書いていました。字も揃って綺麗に書けていたが、これでいいのかなと思いました。国語教育の面からいえば、問題もあります。

(教育長)

もちろん使い方は考える必要があります。教育は人対人が基本だと思いますが、パソコンの欠点は、間にパソコンが入ることによって人と人が遮断されることだと思います。ICT機器だけで教育するのであれば、学校に来なくてもいいわけです。

ただ、不登校対策で、不登校生にパソコンを渡して家庭で学習させている市町村もあります。

(谷委員)

カメラで先生の顔を写すのですか。

(教育長)

メールではないかと思います。そういうふうにも使えるということです。ICT教育は可能性としては無限にあるわけですから、それを学校がどう活用していくかということをテーマにして、年次的にその技術をアップしていくというようにすれば、オンリーワンとステップアップの結び付きがよくわかるのではないかと思います。

(小松委員)

昨日訪問した学校で、オンリーワン、ステップアップ、三好市の重点目標である外遊びとか、早寝・早起き・朝ごはん運動などを取り入れて、学校要覧を上手に作っていましたが、重点目標もあって、ステップアップもあってということになるので、ある程度絞って整理することも必要ではないかと思います。

(教育長)

学校からは、教育委員会があれもやれ、これもやれといっぱいありすぎて困る、という不満があるかも知れません。確かに、三好市の重点施策の量も多い。しかし、それを全部100%の勢力をつぎ込んでやってくれ、ということではない。その中で、各学校が実態にあわせて、どれに焦点をあてて学校経営を実践するか、まさに各学校の独自性になってくるわけです。しかし、教育委員会としては、ICTとか不登校とかいじめ問題とか、そういうようなものは、やはり重点を置いてやって欲しい。

例えば、不登校対策であれば、不登校生がいない学校は別にいままでのやり方でいいわけです。学校の実態からこれを重点項目に扱おうというのは、校長先生や学校の先生方の判断ということになります。

(谷委員)

学校要覧等の資料の中に、去年と今年の内容がほぼ同じという学校がありますが、それはどうなのかなと思いました。

(教育長)

学校要覧にしても、毎年見直して改善を加えながら作成していく必要があると思います。

(岡本委員長)

学校現場は、様々な問題の対応で、日々、大変だと思います。規模が大きいと、子どもも保護者も多様なので、発生する問題も違う。また、小さい学校も小さい学校なりに問題を抱えているわけです。そうしたなかで、ひとつの学校としての教育を確立していくことは、ずいぶんのご苦労があると思います。

(小松委員)

学校と企業のトップのマネジメントでは、共通するところがあると思います。日々の事象に由来して処置するマネジメントと、基本を決めて会社の風土、学校の風土や特色を作っていくという、2つの目標をはっきり持ってやっていかなくてはいけないと思います。毎日の忙しさに追われてそれで終わったら、これはもうトップマネジメントではない。大変だとは思いますが、校長先生はそれを自覚して、フォローしたり見直をしながら学校経営をしていかなくてはいけないと思います。会社でも、日々のことに追われて一生懸命というのでは、企業のトップとしては失格だということです。

(岡本委員長)

校長先生たちに対して、教育委員会としての思いをきちんと伝えて、理解してもらえることが重要だと思います。

教育は人間づくりで、知、徳、体のバランス、将来自立する子どもを育てるということは普遍的なもので、これが教育の目標です。その上で市の特色なり、学校の特色なりを出して、この点ではどこの学校にも負けないというのが、オンリーワンスクールですよね。これだけはどこにも負けないという特色ある学校づくりがオンリーワンですから、そのことは大事ですし、賛同できます。

(教育長)

三好市がスタートした時、例えば東祖谷と三野町とでは社会環境が全然違うわけです。それを1つにして三好市としての独自性、三好市の特色をもった教育を打ち出すというのはなかなか難しいと思いました。そのため、それぞれの地域の特色を生かした教育ということに重きを置いて、オンリーワンスクールを実施したわけです。しかし、3年経ってどうも成果が見えてこない。そのため、評価も加えながら1年とか2年とかのステップで、目標へ到達できるようにステップアップスクールというのを打ち出しました。

また、町村合併当時は、ICT 機器の環境整備についても各旧町村でずいぶん格差がありました。いまはなくなった。さらに、今後、ICT の整備計画を考えていく上からも、ICT

教育が現状のままではいけない。オンリーワン、ステップアップもややマンネリ化の傾向にあることから、ICT教育の導入を考えてみたわけです。

(岡本委員長)

たくさんの意見が出てよかったと思います。学校訪問については、いまやっているやり方が大変効果的でよいということでまとめたいと思います。その他、学校訪問やそれ以外にも意見がございましたらどうぞ。

(次長)

喜多先生、この要綱のことで何かありますか。

(喜多指導主事)

資料を見ていただいたらと思います。中学校のアンケートの中で「あなたはいまの学年になっていじめられたり、差別を受けたことはありますか」という問に対して、「あった」、「ときどきあった」の合計が107人。748人中107人で、割合でいえば14%です。県の調査とは大きな差異があります。ただ、注意すべきは、子供によっては殴られているようなものしか「いじめ」ととってない場合もある。しかし、遊んでいる時に叩かれても辛い思いをしている子もいるわけです。1学期、2学期、3学期とアンケートをとるなかで、少しずつ自分の中にいじめについての意識づけができてきているように思います。

数字だけが1人歩きすると、誤解を生む恐れがあるので、その点はよろしく願います。以上です。

(岡本委員長)

調査は1学期も2学期も実施したということですか。

(喜多指導主事)

内容を少しずつ変えて実施しています。

(岡本委員長)

いじめが教師に見えてない場合もある。

(喜多指導主事)

現場の先生がこの調査の数字を見て、いじめについて意識付けをしてほしいと思います。

(岡本委員長)

調査の実施はいいと思います。ほかに何かありますか。

(鈴木課長)

今年度の第1回市民大学講座が6月5日にあります。講演会は、市の人権教育推進協議会との共催です。今回の講師は栗原 美和子さん、テレビドラマプロデューサー・作家の方です。これまで、障害者や高齢者問題が多かったのですが、近年、同和問題の取り扱いが十分でないということで、同和問題、被差別部落の問題ということで講師さんを選ばせていただきました。時間は13時30分から、総合体育館で行います。講演会の前に市民大学講座の開校式も実施します。

(岡本委員長)

わかりました。是非、聞かせていただきたいと思います。他に何かございませんか。なければ以上で定例会を終わります。お疲れでした。

委員長交代ということで、次回より小松委員さんによろしくお願いします。委員としての任期は残りますので、引き続きよろしくお願いします。

本会議録に相違ないことを認め署名する。

平成24年 月 日

委員長

議事録署名者

書記